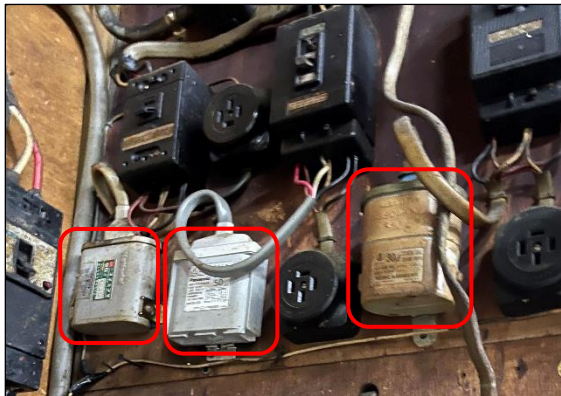


「低圧進相コンデンサ」からの火災にご注意を!

高温・多湿の時に火災が多く発生しています

「低圧進相コンデンサ」とは?

電圧200V～600Vで受電している畜舎、作業場、飲食店等や住宅で、モータで稼働する設備や大型の冷蔵庫等の消費電力を抑える機器として1940年（昭和15年）頃から配電盤等に設置されています。



出火した低圧進相コンデンサ



【 低圧進相コンデンサ火災の特徴 】

- 低圧進相コンデンサが劣化しても電気機器は通常通り使用できるため、異常に気付かないことが多く、突然煙を出して炎を噴き上げます。
- 低圧進相コンデンサは分電盤などに設置されていますが、勤務者や居住者が低圧進相コンデンサの設置を把握していないことがあります。
- 電気機器を使用していなくても、メインブレーカーを切らなければ低圧進相コンデンサに電圧が常時かかっているため、いつ出火するかわかりません。

～ 火災を防ぐためには ～

- ◎ 電気機器を使用しない時はメインブレーカーを切り、低圧進相コンデンサに電圧がかからないようにしましょう。
- ◎ 昭和50年(1975年)以前に製造された低圧進相コンデンサには、保安装置が内蔵されていないため被害が拡大する危険性があります。使用を停止するか、交換する必要があります。
- ◎ 概ね10年以上経過したものは、専門業者による点検を受け、計画的に交換しましょう。

※ 一般社団法人 日本電機工業会では、長年使用した「低圧進相コンデンサ」は発火の危険があるとして、古い低圧進相コンデンサの使用停止と取替えが促進されています。

日本電機工業会のホームページはこちら⇒<https://www.jema-net.or.jp/Japanese/pis/condenser.html>